

アトリエ 琉游舎 だより 29号

2018年6月20日発行

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

6・7月はイベント三昧

- 琉游舎ではイベントに積極的に参加していきます。
- まずはさくらジャンゴ・ラインハルト・フェスティバル。伝説のジプシージャズのギターリスト、ジャンゴ・ラインハルトの名前を冠した音楽フェスティバル。今年で8回目です。喜連川道の駅と市内の会場で開かれます。琉游舎は協賛と実行委員として参加しています。
- そしてコリーナが会場となるやいた片岡ロードレース。コリーナホテルに観戦広場を設けます。ここを拠点に、日本最高峰のプロたちの迫力のレースをお楽しみください。もちろん琉游舎も観戦拠点の一つとなります。
- 生の音楽、生のレース。それはテレビやオーディオで観たり聞いたりする体験と全く違う体験です。臨場感、人の息遣い、ライブ感（今ここにいるという実感）を丸ごと体で受け止めてみてください。貴重な機会をぜひ一緒に楽しみましょう。
- 詳しい内容は琉游舎にパンフレットが置いてあります。また上記のホームページにもパンフレットが掲載されています。ぜひご覧ください。
- 観戦広場については一緒に運営する仲間も募集しています。

6月・7月のスケジュール			木	金	土	日
月	火	水	21	22	23	24
25 居酒屋の会 16時～	26 読書会 13:30	27	28 映画会 13:30	29	30 さくらジャンゴ ラインハルト フェスティバル	7月1日 さくらジャンゴ ラインハルト フェスティバル
2	3 写経会 13:30	4	5 映画会 13:30	6	7	8 写経会 13:30
9	10 読書会 13:30	11	12 映画会 13:30	13	14 詩話会 13:30	15
16	17	18	19 映画会 13:30	20	21	22 やいた片岡 ロードレース

写経会

7月3日(火)
7月8日(日)
13時半から

読書会

6月26日(火)
7月10日(火)
13時半から

詩話会

7月14日(土)
13時半から

映画会

毎週木曜日
13時半から

今年のほうれん草はよく出来た。ブロッコリーもこれなら合格点だ。と野菜作り2年目の少しは進歩した作物たちの姿を見て喜び勇んで収穫してみたところ、思わぬ落とし穴が待っていました。先客が私より前においしさをすっかり堪能してしまったようなのです。収穫した野菜を洗っているとブロッコリーの中から大量の青虫を発見。全部取り除いたと思ったら、茹でた鍋にまた数匹がプカッと浮いてきました。ほうれん草の葉っぱの縮んでいるところでナメクジを発見。しかも大量の黒い粒、ナメクジのふんです。人がおいしいと感じるものは、青虫やナメクジにとってもご馳走なんですね。さあ困ったことになりました。これからも虫などの生きものがおいしさを堪能した食べ残しを私が頂くか、あるいは私だけがそのおいしさを独占するために、彼らにいなくなってもらうか。「自然との共存共栄」「生きものを大切に」というようなスローガンは言う易く行うは難しです。だから私は明日になると、せっせとピンセットで青虫をつまんで駆除するか、手っ取り早く農薬を撒いてしまっているかもしれません。

自分とカタチが違うものに対して、人は本能的に拒絶反応を起こすものなのでしょう。そしてそのカタチの違うものが私たちの権利を侵し始めると、人は攻撃に出るか逃げるかするのだと思います。人が野菜の虫たちから逃げると言う選択肢はあまりないでしょうが、山菜採りで熊に出会ったら、確実に逃げようとするはず。人以外の生きものから侵入を受けた時の私たちの対応は、おそらくこのどちらかのはずです。虫や動物は見た目が人と明らかに違うから、対応も明らかなのです。ところが人は人に対してもこのような対応に出てしまうものです。人間同士皆人間なんだから「同じだ」と観るのではなく、肌の色、しゃべる言葉、信じる思想や宗教、性別、などから「違う！」と観てしまうのです。残念な事ですが、これが私たち人間社会のありようです。おそらく人はこれからも「同じ＝平等」ではなく「違う＝差別」の論理で社会を成立させようとするでしょう。

「眼横鼻直（げんのうびちよく）」という言葉があります。鎌倉時代の祖師の一人道元が留学先の中国から帰国したとき、迎えの人に「留学の成果はなんでしたか？」と問われて「ただ眼横鼻直なるを知るのみ」と答えました。「何を悟ったのか？」ときかれて「眼は横に並び、鼻は縦についているだけだと知った」と、何ともしばけた答えですが、当たり前前のことを当たり前に言っただけなのです。人の顔の形は皆同じであると観たとき、道元は「眼横鼻直」という言葉にたどり着きました。「違う」と見ることはそんなに難しいことではないでしょう。「眼が大きいや小さい」「瞳が黒いや青い」など見ればすぐ分かります。見た目の「違い」はすぐ発見され言葉となり行動に移されますが、「同じ」は分かりきったことだから言葉にもされないでしょう。それとも「同じ」に気づくことがなかなか人は出来ないのでしょうか。

「同じ」であると観ることは「あるがままに観ること」だと思っています。素直に当たり前前のことを当たり前として観ていくと、「違い」は次第にそぎ落とされて「同じ」というカタチが自ずから立ち現れてくるはず。最初に「違う」から入ってしまうと、違う部分だけがフレームアップされ、肥大化し、ついには受け入れ難い「違い」にたどり着いてしまいます。そうすると人はその違いに抵抗するか服従するかあるいは逃走するかを選択を迫られるのです。私はどれも選択したくはありません。自分の観たありのままの「今あるここ」に居たいだけなのです。道元が言ったように「眼横鼻直」と観れば良いのです。楽しいことは楽しいと観る、悲しいことは悲しいと観る、その観たままを素直に受け入れればよいのだと思います。ありのままに自分を観る、他人を観る、社会を観る、自然を観る。それがやすらぎのところへ向かう「行い」だと、道元のこの言葉は語っています。經典の難しい教えを会得したり厳しい修行をすることではなく、私たちが生きるこの場所の当たり前前に真理があることに気づいたこと。それが道元の悟りの言葉「眼横鼻直」だったのです。

さて、私もお釈迦様の導きにより当たり前前に真理があるということに気づきました。では青虫と私の「眼横鼻直」はなんなのでしょうか。青虫と私の違いをそぎ落とした先に待っている「同じ」はおそらく「生きている」ということでしょう。ただ私はその「同じ」のために自分のせっかく育てた野菜たちを虫たちに横取りされることには納得がいけないのです。僧侶たるもの不殺生戒を守らずにどうすると言うような無駄な問いかけに答える気もありませんし、生きもののいのちを頂くことで私たちはいのちを繋ぐことが出来るのです。感謝しなさいと言うお為ごかしを言うつもりもありません。ただ納得がいけないという感覚を大事にしつつ、であればどのように行動するかという「行い」だけを考えていきたいと思います。

これから暑くなってくると、さらにいろいろな生きものが私の畑にご馳走を食べにやってくるでしょう。虫も鳥も動物も不味いものは食べないはずですから、私の野菜作りの腕も上がったと自負していいかなと思っています。虫たちに褒められて

せっせと野菜作りに励む毎日もいいものですね。それではまた次号でお会いしましょう。(出琉)

琉游舎：戸井 出琉・恭子

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850

Mail:toi101izuru@outlook.jp

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/